

かぶと観音

封建時代に作られた華麗な天井

この観音堂の縁起は、領主木曾義仲が 1180 年から 1185 年まで続いた平家と源氏間の内乱、源平合戦に出撃する前に自分の兜の中に納めていた、慈悲を象徴する観音の像を戦勝祈願として奉納した 12 世紀にまで遡ると考えられています。この寺の境内にある平たく丸い石には義仲が腰掛けたという伝説があります。

この観音堂の現在の建物は、1998 年に復元されましたが、元の建物は江戸時代 (1603 年～1868 年) の中期に遡ります。花や動物の図柄をあしらひ、格間に覆われた天井は、木曾氏お抱えの絵師の作品でした。この祠を世話していた尼僧は、祠の隣の部屋に住んでいたと思われます。

入り口の石標には、「抜け道」を意味する「かけぬけ道」が彫り込まれています。中山道は、この祠の右側を南方向にカーブしているため、旅人は境内を横切ることによって僅かな距離ながらも近道をする事ができたのです。